

～ちょっと気になる感染症～

レジオネラ症について

◆レジオネラ症とは



レジオネラ属菌による感染症でその病型には肺炎型とポンティアック型があります。

高齢者や生活習慣病、悪性腫瘍など免疫機能が低下している人は発症のリスクが高くなります。

大津市においても毎年、5～10名程度の患者が発生しています。

◆症状について



肺炎型は肺炎を主徴とし、全身倦怠感、発熱、乾性咳、喀痰、胸痛や腹痛・下痢などの消化器症状、中枢神経系症状が出現します。適切な治療がなされない場合の致死率は60～70%に上ります。

ポンティアック型は感冒症状が出現。多くは2～5日で自然治癒します。

◆感染経路について



レジオネラ属菌は水中や湿った土壌など自然環境に普通に存在している細菌ですが、15～43℃で繁殖し、循環式浴槽水、空調施設の冷却塔水、給湯器の水など人工的な温水中に生息するアメーバなどの原虫の細胞内で増殖します。

そのため、ジャグジー、加湿器、噴水などにより発生したエアロゾルを吸入することで気道感染を起こします。

人から人への感染はしないとされています。

◆予防について



旅館や公衆浴場では定期的な点検、清掃、消毒、細菌検査が実施されています。

家庭の浴室についても給湯口を定期的に清掃しましょう。

◆適切な受診について

レジオネラ属菌は常在菌であることから、感染予防が困難です。

体調不良が続く場合は、医療機関を受診しましょう。

肺炎型の潜伏期間は2～10日です。

◆レジオネラ症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき診断された方に対し、保健所が疫学調査を実施することとなっています。

感染拡大防止のために必要な調査ですので、ご協力をお願いいたします。